

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム げんきむら		
所在地	山口県光市島田2丁目22番11号		
電話番号	0833-71-6222	事業所番号	3571000193
法人名	有限会社 メディビス		

訪問調査日	平成 21 年 11 月 16 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人 非常勤 2 人 (常勤換算 8.5 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋鉄骨コンクリート 造り		
	5 階建ての	4 ~	5 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	22,000 円	敷金	有	100,000 円
保証金	無	円	償却の有無	無	
食費	朝食	300 円	昼食	450 円	
	夕食	450 円	おやつ	円	
その他の費用	月額	16,000 円			
	内訳	光熱水費 7,000円、日用品費 3,000円、共益費 4,000円、事務管理費 2,000円			

(4) 利用者の概要 (11月16日現在)

利用者数	8 名	男性	名	女性	8 名	
	要介護1	4	要介護4			
	要介護2	4	要介護5			
	要介護3		要支援2			
年齢	平均	86.3 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 光中央病院 歯科 諏訪歯科医院
-------------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

事業所独自のケアカンファレンスシートを作成して活用され、利用者の生活に視点をあてて課題を明確にされたり、本人や家族の希望、関係者等の意見を反映させた介護計画を作成されています。サービス記録兼ケース記録表に介護計画に掲げた短期目標や日々のケアを記入され、介護計画に基づいたサービスの提供を実践されています。

(特徴的な取組等)

感染症マニュアルに居室・プレイルーム消毒マニュアルを追加されて、毎日、床、浴室、浴槽、トイレ、テーブル、椅子、手すり、ドアノブ、水道のどって等の消毒をされています。
利用者の思いや意向の把握に努め、その人の残っている力を引き出す取り組みをされ、キーボードで伴奏されることが生きがいになった方もおられます。利用者は、おだやかで明るい雰囲気の中で居心地よさそうに過ごされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

職員会議で評価結果を検討し、全ての外部機関を明示されたり、非常時の地域への協力要請については、地元自治会と相互の応援について話し合っておられるなど、出来るところから改善に取り組みられています。

(今回の自己評価の取組状況)

職員会議で項目ごとに仕分けして職員が記入し、記入後に全職員が話し合い、主任がまとめて作成しサービスの質の向上に活かしておられます。

(運営推進会議の取組状況)

年3回開催し、メンバーは、自治会長、市地域包括支援センター職員、家族、利用者、施設職員等で、介護保険(居宅・地域密着型・施設)サービスの説明、利用者の状況報告、外部評価報告、地域の情報などで意見交換をし、サービスに活かされています。

(家族との連携状況)

年6回発行の事業所便りを送付されたり、面会や電話等で暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動を報告され、意見や要望などを聞かれています。年1回家族交流会(小運動会)を開催し、一緒に昼食をとられて連携を深められています。

(地域との連携状況)

公民館まつりや商店街の光まつりなどの地域行事に参加されたり、地域の人と散歩の時に挨拶をされたり、地域の人から野菜や果物の差し入れや顔馴染みとなった法人の職員からお花の苗を頂き花壇をつくるなど、地域の人と交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の方々と交流を深めて行くことを大切に、明るい笑顔と挨拶を忘れず、ふれあう」というホーム独自の理念を職員でつくりあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を共用空間に掲示し、職員は朝のミーティングで唱和して理念を共有し、日々のケアに取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	公民館祭りや商店街の光まつりなどの地域行事に参加し、地域の人と散歩の時に挨拶をしたり、地域の方から野菜や果物の差し入れをもらったり、法人の病院から花の苗をもらい花壇を作るなど交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議で自己評価書を配布し、項目ごとに仕分けして職員が記入し、記入後に全項目を話し合い主任がまとめて作成し、サービスの質の向上に活かしている。外部評価の結果は検討し、改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	年3回開催し、メンバーは、自治会長、市地域包括支援センター職員、家族、利用者、施設職員等で、介護保険(居宅・地域密着型・施設)のサービスの説明、利用者の状況報告、外部評価報告、地域の情報などで意見交換をし、サービスに活かしている。	・開催回数の増加 ・メンバーの拡大
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市とは、日頃からアイパーク光・地域包括支援センターや担当課に行き来して、サービス体制の確認や情報交換をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年6回発行の事業所便りを送付したり、面会や電話等で暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動を報告し、意見や要望などを聞いている。年1回家族交流会を開催して小運動会を行い、一緒に昼食をとっている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話等で声かけをし、気軽に家族の意見や苦情を聞き運営に反映している。苦情相談窓口や担当者、外部機関を明示しているが、第三者委員は選任されていない。	・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤7名、非常勤2名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応できるようにしている。職員の急な休みには、話し合いで勤務調整している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限になるように努力している。異動の場合は、日勤は2週間、夜勤は3日間の重複勤務をして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の内部研修計画があり職員は積極的に研修に参加している。外部研修は職員の希望を聞き勤務の一環として参加している。復命研修などを行ない働きながらのトレーニングに努めている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人全体で小規模多機能型施設などと交流し、口腔ケアなどの勉強会をしている。管理者は、市内の同業者(管理者)と交流する機会を持ち、情報交換を通じてサービスの質を向上させている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人や家族に見学をしてもらい、他の利用者や職員と一緒にお茶を飲んだりしながら馴染んでもらっている。職員は入居前に自宅を訪問して本人や家族と話しあい、馴染みの関係づくりをしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、利用者から調理の味付けや昔話などを教わったり、掃除や洗濯物たたみなどを一緒にしながら、学んだり支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者の日々の何気ない会話や行動、好きなこと、出来る事などをケアカンファレンスシートに記録し、思いや意向の把握に努めて共有している。把握が困難な場合は、家族から情報を得て本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスを毎月1回(15時～16時30分)開催し、本人や家族の希望、担当者の意見を取り入れて話し合い、介護計画を作成している。休みの職員には時間外手当を支給し、職員全員が出席して計画を共有している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>モニタリングをして3ヶ月毎に見直しをしている。変化が生じた場合は関係者と話し合っって新たな介護計画を作成している。入院先の病院に職員や家族が出向いて主治医や関係者と話しあって検討した例もある。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療機関への受診の送迎と付き添い、美容院への送迎、買い物、自宅訪問、ドライブ、法事の付き添い、お寺参りなど、その時々々の要望に応じて柔軟に支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医の希望を聞いているが、家族の希望により、協力医療機関がかかりつけ医になっており、定期的に往診があり、適切な医療が受けられるように支援している。受診結果は家族に報告している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期を向えた場合は、早い段階から本人・家族、主治医、看護師、職員等で話し合い、方針を決定し、職員が共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルがあり、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行い、利用者一人ひとりを尊重した対応をしている。記録物は事務所に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の大まかなスケジュールはあるが、利用者の日々の体調や希望にあわせ、一人ひとりが楽しく過ごせるように、一人ひとりのペースに合わせて支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食調理し、食材の購入、調理、野菜の下ごしらえ、配膳、後片づけなど、出来る人が職員と一緒にいる。職員も同じものを一緒に食べながら食事を楽しめるよう支援している。月に1回の手作りおやつの日、利用者と職員と一緒に楽しく作っている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日、夕食後の18時から20時まで入浴ができ、ゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。就寝前に入浴することで安眠につながっている。入浴を嫌がる場合はタイミングを見て対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの得意な分野を把握し、キーボードの演奏や歌、書道、料理、買い物、洗濯たたみ、花壇の手入れなどの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日、食材の買い物や散歩に出かけ、その日の希望にそってお寺参りや神社への参拝に出かけている。法人の駐車場の花壇の手入れなど、少しの時間でも戸外に出かけられるように支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人内研修で職員は正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵の弊害を正しく理解しており、見守りで日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら職員が同伴している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記録して改善策を検討し、介護計画に反映させて一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し救急救命訓練に参加しているが、応急手当や初期対応の定期的訓練は行っていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、消火・避難訓練を実施している。(そのうち1回は夜間を想定) 地元自治会と非常災害時の相互の応援について話し合っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は、主治医、薬剤師の指導を受けて薬の目的や副作用などを理解している。薬はその都度手渡しで服用を確認している。必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後に口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯の清掃や保管は利用者一人ひとりの状況に合わせて支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	年1回法人の栄養士に1ヶ月分の献立表を提出して、献立や栄養バランスの指導を受けている。食事量や水分摂取量を記録し、必要量が確保できるように一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルに居室・プレイルーム消毒マニュアルを追加して、毎日、床、浴室、浴槽、トイレ、テーブル、椅子、手すり、ドアノブ、水道のどって等の消毒を徹底して行っている。インフルエンザの予防接種は全員が受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	フロアには、ゆったりと座れるソファが置いてあり、ベランダには洗濯物や干し柿がつるしてあり、5階なので眺めが良く明るい日差しが差し込み、台所からは調理の音や匂いが漂い、利用者の五感に働きかけ、居心地良く過ごせるように工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスやテレビ、鏡台等、自宅で使い慣れた家具が持ち込まれている。手作りの作品やぬいぐるみが飾られ、一人ひとりの好みに合わせて居心地良く過ごせるように工夫している。希望により、二人部屋での居室も可能である。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	有限会社メディビス
所在地	山口県光市島田2丁目22番11号
電話番号	0833-71-6222
開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

毎日の夕食後の入浴で
三度の食事を入居者と一緒に会話を楽しみながらゆっくり作る
24時間いつでも職員がつきそい、病院を受診できる

【実施ユニットの概要】 (10月1日現在)

ユニットの名称	グループホームげんきむら			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護1	4	要介護4	
	要介護2	4	要介護5	1
	要介護3		要支援2	
年齢構成	平均 86.3 歳	最低 78 歳	最高 94 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員が手分けして記入
評価確定日	平成 21 年 10 月 28 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		近隣の方たちが気軽に立ち寄れる為の工夫が必要と思われる
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		地域貢献に関しては、取り組めていないため、これから話し合う必要がある

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価後の改善項目は会議で検討し、改善に向けて取り組んでいる	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	評価への取り組み状況や利用状況等を説明し、意見を参考にサービスに活かしている	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市主催の研修会、連絡会議に参加し、サービスの向上に取り組んでいる	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	市などが開催する研修に参加するようにしている	権利擁護と成年後見制度のしくみと違いを研修して第3者に説明できるようにする
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、学んだ事を生かして防止に努めている	定期研修で見つめなおしていく
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書を見ていただき、しっかり説明をして不安など無いよう納得してもらい、又、退去後の相談にも安心されるよう支援している	入所までの流れをパンフレット化して不安解消に努めている
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	推進会議に参加してもらい、個別に意見を聞いてミーティングを行うようにしている	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	げんきむらだよりに写真を載せて送付している 家族の訪問も多く、暮らしぶりや健康状態を報告している 金銭管理については領収書、記録をコピーして訪問時にサインを頂いて手渡している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		ケアカンファレンスを通して職員間の意思を会社理念に結びつける
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		職員の希望日を聞き入れて、勤務表作りを進めていく
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		意識の中で知識につなげ、質の向上に努めたい
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者と現場職員との間に中間管理的人員の配置で問題点に取り組むように努めている		話しやすい職場づくりを目指す
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格手当を設けより上級資格への促しや無資格者には当事業所のヘルパー養成校にて取得できるように配慮している		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	ミーティングや面談による評価を行うようにしている ケアカンファレンスを通じて職員の考え方等で見極めている		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	色々な話題を通して本人から話してもらえるよう思いを引きだしている		傾聴するという基本を忘れず利用者から話せる環境作りを目指したい
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族が心を開いて話してもらえるように努めている		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	思いをしっかりと受け止め必要とされている支援を見極めている		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に面接やホームを見学してもらい、徐々に馴染めるように工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	散歩、買物、献立作成、調理など一緒に過ごすことで本人からいろんな事を学んだり、支え合う関係を築いている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		昔の懐かしい場所、思い出のある風景へ出向いている
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		洗濯たたみを会話をまじえて一緒にしている
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		ケアカンファレンスで個人個人の見方を大切にしてい
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族から意見を聞き、職員、担当者は月1回のカンファレンスで話し合い、利用者一人ひとりに合った介護計画を作成している	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人の状況変化に伴い、関係者と話し合い、その都度見直し、新たな計画を作成している	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌にその都度記録をし、見たら名前を記入し情報を共有して見直しに活かしている	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	墓参り、自宅訪問、クリーニング、美容院、歯科や病院受診の支援をしている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域との関わりを持つため、触れ合う機会を多くするように努めている	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ホームの状況を理解してもらえるように2ヶ月に1度の新聞を発行したり、催しもの行ったりボランティアの受け入れもしている	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要があれば外部の事業所との連携をとって、家族の意向に添えるようにする	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		本人のなじみの物を居室に置いてもらう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮し、記録物の管理もきちんとしている</p>	<p>個人情報保護に努めている</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者自身、できる事をできるまで見守る</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>居室等掃除の場合、利用者さんと共に出来るところを出来るよう支援する</p>	<p>ケアカンファレンスで出来る事を職員間で見つけ出す</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員側の都合ではなく、一人ひとりのペースを大切にし、希望に沿った支援をしている 朝の散歩、買物、お寺参りは本人に確認しながらしている</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望にそって美容室等に同行する 職員によりネイルのおしゃれを楽しみされている</p>	<p>服装等不十分なところやみだれはさりげなく整えている</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材の購入、調理、配膳、食事、片付けを職員と利用者が一緒にいき、楽しんでいる</p>	<p>それぞれの個性を踏まえ、分担して職員とともに食事づくり等行っている</p>
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>おやつの場合、希望を取り入れたり、本人の好みを献立に取り入れ楽しめるように支援している</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握して、さりげなく声かけや誘導を心がけている</p>	<p>排便、排尿表を作成 それぞれの時間の把握している</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日、就寝前18時から20時でゆっくり楽しめるよう支援し、安眠につながっている		昔からの夕食後のお風呂を楽しんでいたきたい
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	昼食後の午睡や夕食後の入浴により睡眠リズムが整うよう配慮している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの得意分野を活かしながら、書道、料理、買物、洗濯物たたみ等気晴らしの支援をしている		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人管理又は職員預かりなど各々に応じて対応し、買い物をしてもらう		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日、食材の買い物や散歩に出かけている 希望者はお寺参り、神社への参拝など支援している		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節に応じて行事を取り入れ外出できるようにしている		年1回マイクロバスを使用して、日帰りツアーを組んでいる
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者が電話をかけたい時は応じている		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会に応じ、ゆっくり会話を楽しめるよう自室で過ごしてもらう		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	その時に応じて要望があれば対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		心配蘇生法等の訓練を定期的に行う
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		ヒヤリはっとはどんな事が多いかを集計する事で事前に事故を防ぐことができる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練の実施 地域の協力体制や災害に備えた物品等を常に準備しておく必要がある		緊急の場合、地域の方々や消防署などの協力を得られるよう話し合い実施していきたい
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	やむを得ない場合は家族との話し合いのもと、了解のもとに安全確保のために気をつけている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の様子を把握し変化や異常に気付いたら職員同士報告しあい早期に対応できるようにしている 申し送りで引き継ぐようにしている		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	病院、薬剤師の指導を受け、薬の目的、副作用については理解している 薬は手渡して服薬を確認している 必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	レクリエーションで身体を動かすことや散歩、食事内容の検討なるべく自然排便に心がけている		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	共用の洗面所、居室などに歯ブラシを置き、毎食後の口腔ケアを支援している 義歯などの清掃、保管についても支援している		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスに配慮しながら、献立作成し、食事の摂取量や水分量を記録している 協力病院の栄養士の助言をもらっている		夏場では吸収のよいポカリスエット等を提供している
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し、手すり、洗面所など毎日消毒している ペーパータオルを使用している 床は毎日次亜塩素酸で消毒している		外出後のうがい、手洗いを手洗いを徹底している
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	その日に使う食材を毎日買い物する 冷蔵庫・冷凍庫を点検し無駄のないように工夫して行う		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	大きな案内板を設置したり、玄関に手作りの案内板を置いている	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は5階で眺めが素晴らしく、大窓から町並みや遠く の山々や空が見え、季節ごとの色合いを感じることが できるベランダへの出入りも出来、気分転換が図られる フロアの一角には台所があり、料理をする音や匂いが 感じられる	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	大テーブルやソファを置いている また、カーペットを敷き、座ったり横になったりしてテレビを観たり休まれたり、洗濯物をたたんだりと手作業をされたりしている	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドのみ貸出しのものでその他タンスやテレビなどのものは一人一人すべて使い慣れたものを家庭より持ってこられているのでその人らしい居室となっている 2人部屋で仲良く生活する人もあり、利用者の孤独感や寂しさを補う柔軟な対応をしている	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は本人の許可のもと日中窓開けている 冷暖房の設備も整っており、状況に応じて調節をしている エアコンのフィルターも年2回清掃している	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	シルバーカー、杖など状態に応じて使用している 座っている時の足置き工夫、身体状況に合わせたクッションの使用、身長に合わせて座布団を敷くなどの工夫をしている	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレに迷ったりした時は声かけをしている 持ち物には名前を書き、わかるようにしている	本人のプライバシーに配慮した声かけに気を付ける
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダに洗濯物干し場があり、一緒に干したりされている 玄関前に花壇を作り、草抜きや、水やりをしている	グループ内の花壇づくりもしている

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある たまにある	数日に1 回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="radio"/> 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように たまに	数日に1 回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない